

## 再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：村山 一弥

事業名：一般国道158号 <small>まつもととはたどうろ</small> 松本波田道路	事業区分：一般国道	事業主体：国土交通省 関東地方整備局
起終点：自) <small>ながのけんまつもとしまだち</small> 長野県松本市島立 至) <small>ながのけんまつもとしはだ</small> 長野県松本市波田	延長 5.3km	
事業概要： 一般国道158号は、福井県福井市から岐阜県高山市を通過し、長野県松本市に至る延長約250kmの主要幹線道路である。松本波田道路は、中部縦貫自動車道の一部として広域ネットワークの形成、国道158号の交通渋滞の緩和などを目的として計画された事業である。		
H8年度事業化      H10年度都市計画決定      H26年度用地着手      H一年度工事着手		
全体事業費      約264億円      事業進捗率      11%      供用済延長      0km		
計画交通量      5,100台/日		
費用対効果 分析結果	B/C： (事業全体) 1.3 (残事業) 1.5	総費用：(残事業)/(事業全体) 200/233億円 (事業費：186/219億円) (維持管理費：14/14億円)
		総便益：(残事業)/(事業全体) 308/308億円 (走行時間短縮便益：238/238億円) (走行費用減少便益：49/49億円) (交通事故減少便益：21/21億円)
		基準年： 平成26年
感度分析の結果： 【事業全体】 交通量：B/C=1.2~1.5 (交通量 ±10%)      【残事業】 交通量：B/C=1.4~1.7 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=1.2~1.5 (事業費 ±10%)      事業費：B/C=1.4~1.7 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=1.2~1.6 (事業期間 ±20%)      事業期間：B/C=1.3~1.7 (事業期間 ±20%)		
事業の効果等		
①広域幹線道路網の形成 ・松本波田道路を含む中部縦貫自動車道は、日本列島の中央部を東西に結ぶ延長約160kmの高規格幹線道路。 ・中部縦貫自動車道の整備により、長野自動車道・東海北陸自動車道・北陸自動車道を結び、中部北陸地方に高速交通ネットワークが形成され、都市間の所要時間の短縮が期待。		
②災害時のリダンダンシーの確保 ・南海トラフ巨大地震発生の可能性のある中部地方では、早期の道路啓開体制確立のため、広域支援ルートとして計画。 ・中部縦貫自動車道は、並行する沿岸路線と内陸路線の接続するネットワークを形成するとともに、首都圏や中京圏、北陸圏被災時の代替路や広域的な災害時の救護、救援物資輸送ルートとしても機能。		
③地域活性化の支援 ・当該地域周辺には、主要な観光地が多数存在しており、松本市の年間観光入込客数の約6割を占める。 ・中部縦貫自動車道の開通により、松本-上高地-飛騨高山-白川郷などの観光資源を結ぶ新たなルートを形成し、観光客の増加が見込まれる。		
④交通混雑の緩和 ・松本波田道路と並行する国道158号の区間は、延長6.5kmの区間に信号交差点が15箇所と非常に多く、円滑な搬送に支障をきたしている。 ・当該区間の整備により搬送ルートの信号交差点が減少し、搬送時間の短縮による救命率向上はもとより、搬送の信頼性向上や、搬送中の医療行為の作業環境の改善が見込まれる。		
関係する地方公共団体等の意見		
・長野県知事からの意見： 松本波田道路を含む中部縦貫自動車道は、中部北陸地方の高速交通ネットワークを形成する道路であり、物流体系の効率化等による生産性の向上、沿線観光地を周遊する広域観光の促進、災害時の基幹ネットワークの確保など、大きな効果が期待されております。 また、県としては平成28年度より松本波田道路の用地取得を推進するため、専任職員を配置し事務委託をするなど協力体制を強化しております。 ついては、事業を継続し、積極的な予算確保と早期完成に向けた事業の推進を強く要請します。		
事業評価監視委員会の意見		
事業の継続を承認する。		

